



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア；バアス党地域指導部の改選

2013年7月8日、バアス党は中央委員会拡大会合を開催して同党の最高幹部である地域指導部部員を改選した。今般の改選により、地域指導部書記長であるバッシュール・アサド大統領が留任した以外は、2005年に選出された部員全員が入れ替わった。アサド大統領以外の部員は以下のとおり（50音順）。

アブドゥルナーシル・シャフィーウ	
アブドゥルムウティー・マシュラブ	（人民議会議員）
アルカーン・シューフィー	（人民議会議員）
アンマール・サーアーティー	
イマード・ムハンマド・ディーブ・ハミース	（電力相）
ナジュム・ハマド・アフマド	（法相）
ハルフ・ミフターフ	
ヒラール・ヒラール	
ファイルーズ・ムーサー	
フサイン・アルヌース	（公共事業相）
マーリク・ムハンマド・アリー	（クナイトラ県知事）
ムハンマド・ジハード・ラッハーム	（人民議会議長）
ムハンマド・シャアバーン・アズーズ	（人民議会議員）
ユースフ・アフマド	（駐エジプト大使・アラブ連盟大使）
ワイル・ハルキー	（首相）

今般の改選は、2012年の憲法改正以来初の改選である。憲法改選では、「バアス党は国家と社会を指導する党である」との条項が削除されたため、バアス党と国家の機関との関係が従来に比べどのように変化するかが注目点の一つである。この点、人民議会のラッハーム議長、ハルキー首相ら複数の閣僚が地域指導部に入り、政府や議会の要人が党の幹部となる体制に大きな変化はなかった。ただし、これまでは国防相も地域指導部の部員となることが慣例だったが、今回は軍人や治安機関の関係者であると直ちに判別できる人物は地域指導部に入らなかった。中東調査会で整備している要人名簿を参照すると、地域指導部に選出された者は過去にもバアス党の中央委員会委員や地方支部の支部長を勤めた経歴の者が多く、その点では順当な党内人事とも言える。

一方、今般の改選ではシャラ副大統領らが退任する結果となったことから、『シャルク・ル・アウサト』紙がシリア危機勃発後のアサド政権に対する忠誠や、アサド大統領やその近親者との個人的な縁故が新地域指導部の人事に反映されたとの分析を報じた。ただし、バアス党地域指導部の改選は、党規約によると2010年に行われる予定であったし、2012年初頭には憲法改正準備のため開催予定だった臨時大会が延期された経緯もある。また、前回改選時に選出され

た部員がその後の内閣改造で閣僚から外れた者や、シリア危機に伴う暗殺事件により死亡した者が地域指導部から外れることも当然予想された。そのため、今般の改選で退任した者を、直ちに現政権との意見・立場の相違、体制からの離反の可能性などと結びつけるのは拙速であろう。今後は、シアラ副大統領の処遇や軍・治安機関の高官・有力者とバアス党との関係が焦点となろうが、人事面では過去数年と同様、アサド大統領が2000年の就任以来進めてきた「(縁故や個人的な関係に依拠するのではない) 組織的な運営」との方針に沿った機械的で順当な人事が行われる可能性が高い。

(高岡研究員)